

## 久留米市のまちなか空間における賑わいの創出に関する基礎研究

熊本大学工学部 ○学生会員 池田 昌弘  
熊本大学 正会員 田中 尚人

### 1. はじめに

#### (1) 研究の背景および本研究の目的

これまでのまちづくりでは、車社会への対応を重視した空間がつくられ、人間の使いやすさを軽視した空間がつくられてきた。その結果、まちの歩行者や公共空間の利用者が減少し、まちの賑わいというものが見られなくなった。その中で、近年のまちづくりにおいては、徐々にまちの賑わいというものに主眼を置いたまちづくりもみられる。日常的なまちの賑わいの重要性については、柴田久氏<sup>1)</sup>も言及している。

ヤン・ゲール氏<sup>2)</sup>は活動的で用途の混在した街足りうるための条件を「歩行者交通量の増加」と「町に滞留する人の増加」としている。また、山下裕子氏<sup>3)</sup>は広場における賑わいの条件を「滞留人数×滞留時間」と定義している。

そこで本研究では、まちの賑わいのための「滞留時間」の増加に着目し、まちなか及びまちなか広場での滞留を調査することで、久留米市中心市街地の滞留可能性について明らかにすることを目的とした。

#### (2) 研究手法

対象地として、まちなかの賑わいの創出に向けて尽力している久留米市を選定した。その中心市街地の滞留可能性のある場所を連続立面図となる写真から考察し、その中の主要な広場の滞留を動線調査、行動調査により理解する。

### 2. 研究対象地の概要

本章では、本研究で対象とする久留米市中心市街地の概要と課題を文献調査、久留米市役所の方へのヒアリング調査などから明らかにした。

久留米市は福岡県の南部に位置する、人口 30 万人を超える中核都市である。

図-1 に久留米市中心市街地の大きなゾーンングを示した。久留米市の中心市街地は JR と私鉄の両駅に挟まれ、その間をシンボルロードと呼ばれる都市軸が通っていることから、典型的な 2 核 1 モールであること

が分かる。JR 久留米駅周辺は 2011 年の九州新幹線開業に合わせて周辺のマンション開発が進んでおり、行政機能や分譲マンションなどの集積が見られる。主に西鉄久留米駅周辺が経済の中心となっており、商店街アーケードや金融機能などの集積が見られる。近年では 2 年前に総合プラザである久留米シティプラザが竣工し、より一層賑わいの地としての役割が期待されている。

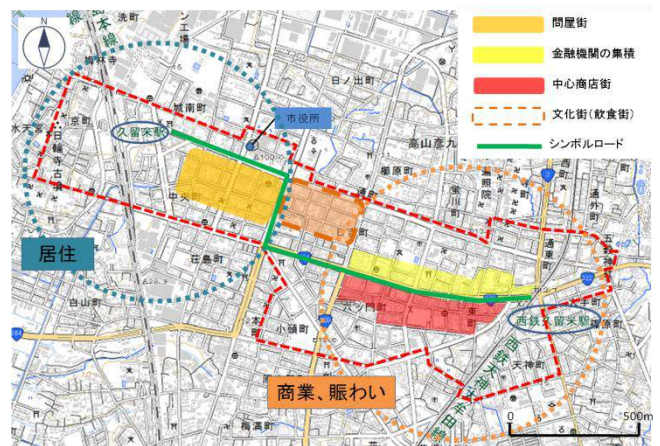


図-1 久留米市中心市街地のゾーンング

### 3. まちなか空間における滞留可能性の分析

本章では、まちなかでの滞留場所を考察し、まちなかの滞留可能性を持つ場所について考察した。

#### (1) 調査場所の選定

久留米市の中心市街地にはシンボルロードが定義されており、都市軸としての役割を果たしている。また、アーケードや都市河川である池町川も立地している。この三つを市街地における滞留可能性のある場所として選定し、現地調査を行った。

#### (2) まちなかの滞留場所の分析

久留米市中心市街地において、滞留の可能性のある場所がどの程度存在し、どのように分布しているかを知り、まちなかの滞留可能性について考察した。まず、滞留の可能性のある場所を現地で住宅地図にプロットし、(図-2)その滞留場所がどのような状況でどのように使われているかを写真の連続立面図で示した。

(写真-1)

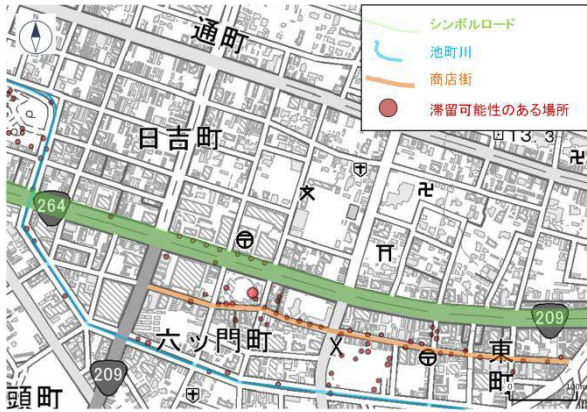


図-2 まちなかの滞留場所のプロット



写真-1 商店街の滞留場所

調査の結果、滞留可能性のある場所は商店街アーケード沿いや都市軸沿いの広場に多く立地していることが分かった。

4. 広場における滞留の分析

本章では滞留可能性のある広場内が実際どのように使われているかを説明する。六角堂広場、東町公園、三本松公園(図-3)の3広場内の行動とその動線、滞留場所を表-1に示す日程でトレーシングペーパーを用いて紙上に調査し、その調査を図化しまとめることで



図-3 市街地における広場の位置

表-1 広場内の行動

対象広場	六角堂広場		東町公園		三本松公園		
	調査日(12月)	9日(休日)	14日(平日)	15日(休日)	21日(平日)	22日(休日)	
12:30~13:30	電話する 暖まる 寝る 立ちスマホ お昼ごはん 案内を見る ラジオを聴く	まちなか遊園地で遊ぶ 子供を見守る トイレ待つ 園児が行進 写真撮る とりあえず座る	お昼ごはん 暖まる 音楽を聴く 案内板を見る 自撮りする たたずむ ピアノの発表会から帰る 画面の前に立つ	ベンチに座る スマホを見る 写真を撮る 電話する 子供と遊ぶ 遊具で遊ぶ	お昼ごはん 座談 寝る 猫と遊ぶ たばこを吸う	ウォーキング ベンチに座る 子供をあやす 自販機で買う 縄跳び、サッカー 電話する 自転車の練習	ごっこ遊び お昼ごはん サイクリング 猫と遊ぶ ランニング 遊具で遊ぶ 座談
	14:30~15:30	電話する 暖まる 寝る 立ちスマホ パソコンで業務 案内を見る 読書する とりあえず座る	まちなか遊園地で遊ぶ 子供を見守る 勉強する 園児が行進 写真撮る 待ち合わせ 新聞読む	トイレ待つ おやつを食べる 階段でグリコする 待ち合わせ 案内板を見る 立ちスマホ ピアノの発表会から帰る 画面の前に立つ	ベンチに座る 自販機で買う 電話する 子供と遊ぶ	お昼ごはん 座談 スケボ 猫と遊ぶ	鬼ごっこ ダンスの練習 子供と遊ぶ 自販機で買う 縄跳び 野球 二人乗りの練習 ポケモンGO
21日(平日)		22日(休日)	爪を切る 寝る あたりを見渡す ラジオ体操 友達待つ ベンチに座る	子供が遊ぶ ブランコ ごっこ遊び お昼ごはん 寝る 体を動かす	ベンチに座る 爪を切る 寝る あたりを見渡す ラジオ体操 友達待つ ベンチに座る	ベンチに座る 野球をする ラジオ体操 昼寝 犬の散歩 ボール遊び 休憩	

広場が中心市街地においてどのような役割を果たしているかについて考察する。

調査で得られた滞留行動を条件ごとに表に表わし、広場ごとの違いや時間帯などでの違いを見た。(表1)

また、得られた動線を図-4のようにイラストレータにより図化し、その広場の特性を入口や滞留場所などの観点から詳細に分析する。その上で、広場内の滞留特性、まちなかでの役割を考察した。

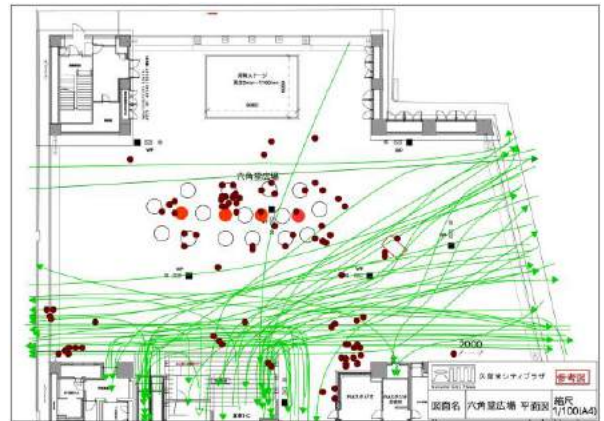


図-4 六角堂広場の動線と滞留

5. おわりに

3, 4章の調査から、久留米のまちには高い滞留可能性があるにもかかわらず、あまり使いこなされていない現状があることが分かった。今後は、滞留場所とそこで起こる行動の相関、アーケード内や広場内の人の移動する向き等に注目して分析を行いたいと思う。

謝辞：本研究に関して、多大なご協力を頂いた久留米市役所の皆様に、記して感謝の意を表する。

参考文献：

- 1) 柴田久：地方都市を公共空間から再生する，学芸出版社，2017年
- 2) ヤン・ゲール：Cities for people 人間の街公共空間のデザイン，鹿島出版会，2014年
- 3) 山下裕子：にぎわいの場 富山グランドプラザ 稼働率100%の公共空間のつくり方，学芸出版社，2013年